

# クリーンスポーツEducator 各カテゴリーにおけるコンピテンシーリスト

Ver.202405

コアコンピテンシー		NF / JOC / JPSA / JSPO Educator		
		正確な知識と基本的な設計力・実践力・省察力の習得		
クリーンスポーツ Educator としての素養	自己研鑽・探究力	常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続けることができる		
	情熱・教育的愛情	スポーツを愛し、クリーンスポーツ環境・クリーンなアスリートの権利を守るために、教育への誇りと強い情熱、アスリートを含むすべての対象層への愛情をもっている		
	使命感・責任感	スポーツのインテグリティを守り、スポーツを通した未来を育むという、自己の崇高な使命を深く自覚している		
	人間性・社会性	豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、アスリート・サポートスタッフ（保護者も含む）との信頼関係を構築することができる		
	コミュニケーション能力	多様なステークホルダーを踏まえ、適切に対応することができる。また、目的達成及び互いに成長するため、クリーンスポーツEducator相互の関係を構築し、情報共有を円滑にできる（協働性、合意形成力、他者理解等）		
設計力に関する項目	内 基礎となる知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンスポーツの基礎となる知識</li> <li>スポーツの価値とアンチ・ドーピングにおける「11トピックス」の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界のアンチ・ドーピング体系・制度を理解している</li> <li>スポーツの価値とクリーンスポーツの重要性を説明することができる</li> <li>11トピックスに関する最新の内容を正しく理解し、各トピックスに対応した具体例を挙げることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンスポーツの意義/スポーツの価値を理解している</li> <li>世界のアンチ・ドーピング体系・制度を理解している</li> <li>世界アンチ・ドーピング規程・教育に関する国際基準（ISE）で求められる各役割と責務を理解している</li> <li>11トピックスに関する内容、定義を理解し、他者に説明することができる</li> </ul>
	内 教育に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育に関する知識</li> <li>認知能力・非認知能力への理解（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性等の理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順、方法論、スキルなどの認知能力だけでなく、意欲、人間力等の非認知能力の育成の重要性を理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知能力、非認知能力を育むことの重要性について認識している</li> <li>認知能力（領域）には、学習の程度や深さにより、認知過程の階層があることを認識している</li> <li>非認知能力（領域）には、主体的に取り組む姿により階層があることを認識している</li> <li>認知・非認知へのアプローチをバランスよく育むことが大切であることを認識している</li> </ul>
	教育目標設定能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標設定能力</li> <li>カリキュラム・マネジメント力</li> <li>●時間軸</li> <li>複数年・年間といった長期、1回のセッションといった短期、それぞれの時間軸において教育目標及び学習成果を評価する指標や手続きの設定ができる</li> <li>●対象層軸</li> <li>学習者の競技レベル、年齢層、教育履歴、理解度等に応じた目標や活動（アクティビティ）内容の構築ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回のセッションについて、教育ターゲットに応じたセッションの教育目標を設定の上、内容を設計できる</li> <li>セッションの教育目標、及び学習成果を評価する評価規準と評価方法を設定できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッションの時間・教育ターゲットに応じたセッションの教育目標を設定することができる</li> <li>セッションの教育目標の達成度を測る評価規準と評価方法を事前に設定することができる</li> <li>セッションの教育目標を達成するための指導と評価を一体的に設計できる</li> <li>年齢や競技レベルなど学習者に適した内容で、参加しやすい雰囲気や環境の創出に配慮したセッションの設計ができる</li> </ul>
	に 教育的知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知・非認知能力に関わる学習過程を効果的に展開する方法</li> <li>a) 学習者が、認識する、理解する、自身で行動・実行することができるよう事前準備（シミュレーション）することができる</li> <li>b) 安全上の配慮（災害、感染症予防等）に関する事前準備をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【理解、表現】</li> <li>定型のセッション方法と展開方法を理解し、事前にシミュレーション・準備できる</li> <li>アクティブラーニングや学習者との双方向性を確保する方法を取り入れた、1回のセッションの設計ができる</li> <li>セッション時に起こり得る想定外の健康安全に配慮できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回のセッションを「はじめ～なか～おわり」の3段階で内容を構成することができる</li> <li>1回のセッションについて、セッションの目標に即した発問と学習者の活動を設定することができる</li> <li>アクティブラーニングを取り入れた双方向性のあるセッションを計画することができる</li> <li>学習者の健康や安全のため、予防と危機管理について、事前の計画に取り入れることができる</li> </ul>
実践力に関する項目	基礎的条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>a) 教材提示スキル</li> <li>b) インストラクションスキル</li> <li>c) 話し方のスキル</li> <li>d) 板書スキル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つつがなく進行できる</li> <li>a) PPT・映像を活用できる</li> <li>b) 明確に指示できる</li> <li>c) 聞き取りやすい発声、発音で重要なポイントを強調して伝えられる、聞き取りやすく活舌よく話すことができる</li> <li>d) 最後列からも判別できる文字サイズで、丁寧に読み取れる字を書いている、カラーバリエーションに配慮して強調する色使いができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a) <ul style="list-style-type: none"> <li>重要なポイントを端的に示すことができる</li> <li>セッションの教育目標に応じてJADAから提供されたPPTや映像等、ICTを教育ターゲットに応じて効果的に活用することができる</li> <li>重要な概念理解を助けるための適切な教材や具体例等を選択し、活用することができる</li> <li>情報リテラシーを遵守してセッションを実行することができる</li> </ul> </li> <li>b) <ul style="list-style-type: none"> <li>端的に明確な学習への指示ができる</li> <li>活動の主旨や目的を示しながら、的確にグループワーク等の指示ができる</li> <li>今やるべきことが何か、わかりやすい指示ができる</li> <li>適切なタイミングで指示ができる</li> </ul> </li> <li>c) <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者全員が聞き取りやすいスピードで話すことができる</li> <li>活舌よく話すことができる</li> <li>学習者全員が聞こえる声の大きさと話すことができる</li> <li>抑揚をつけて話すなど重要なポイントを強調して相手に伝えることができる</li> </ul> </li> <li>d) <ul style="list-style-type: none"> <li>スライド上（または板書）にて、最後列の人でも判別できる文字サイズを使用できる</li> <li>板書をする際は、読み取れる丁寧な字で書ける</li> <li>スライド上（または板書）にて、カラーバリエーションに配慮できる</li> <li>スライド上（または板書）にて、色使いや下線の利用などを使用し重要点を強調することができる</li> </ul> </li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>a) 受容的雰囲気の創出</li> <li>b) リズム良い勢いの創出</li> <li>c) 発問・応答</li> <li>d) 称賛・受理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方向性が確保され、良い雰囲気作りをし、参加意識を高められる</li> <li>a) 学習者ルールの明示化、受容的雰囲気の創出</li> <li>b) 視線、言葉遣い、身振り手振りなど</li> <li>c) 明確な発問</li> <li>d) 学習者の回答等への反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a) <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者に応じた安心感のある参加しやすい雰囲気づくりを心がけることができる</li> <li>学習者が話しやすい雰囲気を作り出すことができる</li> <li>学習者の状況把握に努めながらセッションをすすめることができる</li> <li>セッションにおける学習者のルールを冒頭及びセッション内で明示的に伝え、認識させることができる</li> </ul> </li> <li>b) <ul style="list-style-type: none"> <li>スライドやメモばかり見るのではなく、顔を上げて話すことができる</li> <li>学習者に適した言葉遣いができる</li> <li>身振り、手振りや表情を意識して（ノンバーバルも活用して）伝えることができる</li> <li>学習者の状況に応じたリズムでセッションを実施することができる</li> </ul> </li> <li>c) <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の興味や思考が揺さぶられる明確な発問ができる</li> <li>回答の学びが深い学習者に対して、発問の修正をして思考を促すことができる</li> <li>答えの得やすい特定の学習者に頼らず発問し、学習者全員の発言を促すことができる</li> <li>配慮が必要な学習者に対して手立てを講じることができる</li> </ul> </li> <li>d) <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の回答を遮断することなく、回答を受領することができる</li> <li>意図しない回答についても、感情を抑制し受け止めることができる</li> <li>間違った回答や発言に対して、すぐに否定せず学習者の前向きな姿勢を受け入れることができる</li> <li>良さを伝えるなど肯定的な働きかけができる</li> </ul> </li> </ul>
	内容的条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者把握</li> <li>学習者の様子を適宜確認し、状況に応じて対応・配慮する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の状況を把握できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション中は机間巡視をして理解状況を確認し、学習者へのアプローチができる</li> <li>個別に学習者を支援する際に、全体の進行が滞らないように配慮することができる</li> <li>障がいや属性の違いに応じた配慮の必要性について把握ができる</li> <li>配慮が必要な学習者に対して積極的な参加を促すことができる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○遂行力</li> <li>滞りなくセッションを進行するための環境整備や事前準備を含め、設計した内容を滞りなくやりきる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間内での進行ができる</li> <li>滞りなくセッションを進行するための準備ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション開始前に余裕を持って会場入り・ログイン準備ができる</li> <li>教材や配布物などを事前に準備ができる</li> <li>受付や座席指定、誘導など、セッションが開始できるように準備ができる</li> <li>セッション中に実施する必要のある座席レイアウトの変更などのオフタスクが、スムーズに最小限になるように準備することができる</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展開力</li> <li>セッションの教育目標に応じた教材や事例の選択など、教育実施の目的を理解した上で計画した設計を実践できる展開力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計に即した教材の準備と進行ができる</li> <li>教育実施の目的を理解し、教育目標に応じた学習者との双方向性を適切に取り入れることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JADAから提供された教材等を適切に取り上げることができる</li> <li>考える機会を促す双方向のやりとりや、活動によって導かれる学習者の深い学びを保障することができる</li> <li>セッションの教育目標と活動の見通しを示した上で実施し、セッションの教育目標と一致したまとめができる</li> <li>学習者の属性に応じて専門用語を咀嚼するなどし、理解を促すような言葉で説明することができる</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機対応力</li> <li>想定と異なる変化に対応できる力</li> <li>セッション中に起きた万が一の事態にも対応できる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理、突発的事態に対して準備をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調に異変が生じた場合、我慢せずに申し出るよう指示ができる</li> <li>気温や天候の変化に応じた安全を確保し、危険を察知した時には、安全行動の確認やルール等の修正を即時に行うことができる</li> <li>避難経路を事前に確認するなど、学習者の安全確保への準備ができる</li> <li>通信障害などが発生した際の対策を講じることができる</li> </ul>	
省察力に関する項目	省察力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○設計に関する省察</li> <li>カリキュラムに関する省察：内容、時間配分、目標達成度など、設計力に関する省察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計力に関する各項目の視点に照らし合わせた、設計の修正や変更を発見できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッションの教育目標、セッション内容、時間配分等が整合しているかを確認できる</li> <li>セッションの実施時期、指導実施方法、教材の一致度を確認できる</li> <li>実践から時間配分・進行への修正点を明示化できる</li> <li>セッション実施後に、セッション全体の設計の修正点、改善点を提案できる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践に関する省察</li> <li>設定した計画に基づき、実施したセッションの成果と方法に対する省察</li> <li>a) 基礎的条件</li> <li>b) 内容的条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践の中から自身の課題と成果を発見できる</li> <li>学習者評価、他者評価を実施し、そのエビデンスとセッションの教育目標を基に省察し、改善点を挙げられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a) <ul style="list-style-type: none"> <li>発声、板書、視線、セッションの進行スピードなどの「基礎的条件」の実践力の成果や修正点を提示できる</li> <li>セッションにおける規律、マネジメントを振り返り、成果や修正点を提示できる</li> <li>受容的雰囲気、肯定的人間関係の様子を振り返り、成果や修正点を提示できる</li> <li>学習者の発言や机間巡視時の応答を振り返り、成果や修正点を提示できる</li> </ul> </li> <li>b) <ul style="list-style-type: none"> <li>滞りなくセッションを実施するための事前準備について振り返り、成果や修正点を提示できる</li> <li>学習者の状況を把握できていたか、自身の行動と学習者や第三者からのフィードバックを元に振り返り、成果や修正点を提示できる</li> <li>変化する状況に対して、臨機応変に対応することができたか振り返り、成果や修正点を提示できる</li> <li>危機的状況についての想定について振り返り、成果や修正点を提示できる</li> </ul> </li> </ul>
Educatorとしての目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標達成への貢献</li> <li>クリーンスポーツEducator自身の価値観（value-orientation）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>承認Educator 自身の価値観を認識する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の教育ターゲットに対する固定観念を自覚できる</li> <li>教育的な方法論に対する自身の考え方を自覚できる</li> <li>教育目標に即して、自身の価値観を認識できる</li> </ul>	